

2013（平成 25）年度 沖縄国際大学 FD 支援プログラム指定プロジェクト

「シラバスの実質化および成績評価の再検討の実施に向けて」提案書

1. 提案の背景

「学士課程教育の質向上」が求められている昨今、本学でも「中教審答申」（学士課程答申等）や社会のニーズを受け、教育の質向上のための取り組みを行っています。

FD 支援プログラム指定プロジェクトにおいて、2011 年度は「シラバスの実質化」によりシラバスの理想像を、また、2012 年度は「成績評価の再検討」により成績評価・基準・方法等を検討しました。

本年度は、過去 2 年間で検討してきた「シラバスの実質化」および「成績評価の再検討」が密接に関連している実態を踏まえ、二つのプロジェクトの内容を総括し、現行シラバスおよび成績評価の変更・実施に向けて検討し、今回の提案に至りました。

2. 提案事項

上記で述べた背景から、平成 25 年度 FD 指定プロジェクトでは、以下 2 点を提案いたします。

(1) シラバスの変更

中教審の「学士課程答申」において「学部・学科等の目指す学習成果を踏まえて、各科目の授業計画を適切に定め、学生等に対し明確に示す」ことが求められていること、また、近年の動向として「成績評価基準の明確化」が求められていること等を受け、単位の実質化を図るためにシラバスの変更を提案いたします。

具体的な変更点は、以下のとおりです。

- ①カリキュラムポリシーや教育目標との関連性を明確にする。
- ②成績評価基準を明確にし、成績評価の厳格化を図る。
- ③授業外での学生の自主学习（予習・復習を含む）促進を図る。

※シラバス詳細については、添付の「シラバス様式」及び「講義概要 記入要領」をご参照ください。

※学生に対して上記のことを意識してもらうために、授業登録画面からその科目のシラバスが確認できるようにする。

(2) 成績 5 段階評価

現行の 4 段階評価では様々な問題（GPA の正当性、偏在等）があるため、「秀：90～100 点、優：80～89 点」で成績評価を等間隔にした 5 段階評価に変更することを提案します。

5 段階評価にすることで、前述の問題が解決されるだけでなく、極めて優秀な学習達成度を示した学生が明確になることで、成績上位者の学習意欲がより刺激されると考えています。

3. 添付資料

資料 1 「シラバス様式」

資料 2 「シラバス 記入要領」

資料 3 「成績 5 段階評価に関する提案事項」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント(授業計画・時間外学習の内容) 授業計画	
	週	テーマ
	1	
	2	
		時間外学習の内容
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	テキスト・参考文献・資料など	
	学びの手立て(履修の心構え・学びを深めるために)	
	評価	

学びの継続	関連科目・次のステージ
-------	-------------

シラバス 記入要領

1. ポリシーとの関連性

共通科目及び各学部学科、専攻等のカリキュラムポリシーや教育目標との関連性を記載します。

2. 区分／形態

区分：科目の区分を記載します。(例)「共通科目○○科目群」「専門必修科目」「○○資格科目」

形態：講義、演習、実験、実習等、授業の形態を記載します。

3. 科目の基本情報

科目名：授業科目名を記載します。

期別：開講時期を記載します。(通年、前期、後期、集中)

曜日・時限：開講曜日・時限を記載します。(例：水5、月3・木3)

単位：科目の単位数を記載します。

担当者：担当教員名を記載します。

対象年次：対象年次を記載します。

授業に関する問い合わせ：授業内容の質問などの問い合わせ方法を記載します。

(例：研究室番号、E-mail、授業終了後に教室で受け付けます 等)

4. ねらい

講義の概要や目的、科目の位置付け等を記載します。

授業の意義(なぜこれを学ばなければいけないのか?)を入れると理解しやすいかもしれません。

5. メッセージ

学生へのメッセージや授業PR等を記載します。

6. 到達目標

学生がこの授業を履修し、学習目的を達成した結果、どのような知識・能力等を修得できるのか、イメージできるように記載する。「～できるようになる」「～できる」など

※この到達目標に達しているかどうかを測定することが、項目10「評価」に結びつくようにする。

つまり、ここでの到達目標は、項目10「評価」で記載する評価方法によって測定できるものを記載すること。

7. 学びのヒント(授業計画・時間外学習の内容)

(1) 授業計画

予習や復習の参考にもなるよう、授業の進度に即した各週(回)の具体的な学習内容を記載します。

毎回計画を具体化できない場合は、「第2～4週：○○○○」のように記載しても構いません。

※注意点：①「到達目標」に対応させて記載する。

②学生にとってわかりやすい流れで記載する。

③例えば、2単位の講義の場合、試験日を除いて15回分の授業が確保されている。

(2) 時間外学習

単位の実質化を図るにあたり、1単位の修得に必要な学習時間は45時間（講義の場合、授業内15時間と授業外30時間）となっていることを考慮するとともに、学生にも認識させる必要があります。

授業計画に沿って進めてもらいたい時間外学習（予習、復習）の内容を記載します。

毎回計画を具体化できない場合は、「第2～4週：○○○○」のように記載しても構いません。

また、テキストを使用する場合は、「テキストP〇～〇を事前に読む」のように記載しても構いません。

8. テキスト、参考文献、資料など

教科書を使用するかどうかを記載し、参考文献として紹介する場合は、その旨を記載する。

また、書名、著者名、出版社、出版年、価格等を記入するとよいかもしれません。

9. 学びの手立て（履修の心構え・学びを深めるために）

到達目標を達成するために必要な事項等を記載してください。

以下の事項が考えられます。

① 「履修の心構え」

学生のニーズと授業内容のミスマッチを防ぐため、「受講時に求められる態度、遅刻などの扱い」「受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目」「受講前に再度確認しておく知識」など

② 「学びを深めるために」

毎回の講義を受講し、理解することは当然であるが、講義時間内だけでは到達目標を達成するには至らないため、「講義内容の理解をより促進させ、到達目標まで引き上げるための学び方」など

10. 評価

項目6「到達目標」に対する達成度をどのように測るか記載します。

受講者がどの程度目標に到達したかを判定する基準を、客観的に説明できることが必要です。

そのため、以下の項目について記載する必要があります。

「評価方法・割合」

それぞれの評価方法と配分割合を明記します。

（例）「期末試験 70%、レポート 20%、平常点 10%」「中間試験 50%、期末試験 50%」

※評価基準

定期試験やレポートではどのような事柄を問うているのか、受講態度（授業への参加）はどのような点で評価しているのか等を到達目標との関連を表記します。

11. 関連科目・次のステージ

(1) 関連科目

授業で扱った事柄の学習継続や発展的学習のために、受講終了後に履修してほしい科目を「関連科目」「類似科目」「上位科目」として記載してください。

(2) 次のステージ

受講終了後にどのような目標を掲げて、次に進んでほしいかを記載してください。

カリキュラムポリシーやディプロマポリシーと関連付けてもよいかもしれません。

成績 5 段階評価に関する提案事項

(1)成績評価は「秀・優・良・可・不可」の 5 段階評価とする。

※学則第 29 条の改正が必要。

(2)「秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満」とする。

※学部履修規程第 16 条第 2 項の改正が必要。

(3)5 段階評価の対象者は、導入時入学者からとし、導入前入学者（同学年の編入学生、再入学生も含む）は 4 段階評価とする。

※新評価と旧評価が重複されて適用される学生はいないため、評価名称が重複しても問題はない。

(4)成績評価は絶対評価とし、各成績評価における人数の上限は設けない。

※新シラバスで科目のねらいや到達目標に則った評価基準を明確にし、成績評価の厳格化を図る。

(5)成績報告は実点数報告とする。

※学生選考（特待奨学生等）の際に、実点数を参考にした比較選考が可能になる。

※移行期間における混乱も避けられる。

(6)GPA に含む単位は、現行同様に卒業単位とする。

(7)GPA 換算値は「秀：4 点、優：3 点、良：2 点、可：1 点、不可：0 点」とする。

(8)語学認定（英検等）については、共通科目運営委員会等で取り扱いを決める。

(9)2016（平成 28）年度入学生より 5 段階評価を適用させる。

※2015（平成 27）年度に教務システムのリプレイスが予定されているため